

大腿骨近位部骨折再骨折予防サポートサービスによる治療効果向上への貢献について

岩城慎平、田中智啓、横山文香、井上智恵、日生下美紀、西窪奈津子
兵庫県立西宮病院 薬剤部

【目的】

当院では2019年1月より、骨粗鬆症による大腿骨近位部骨折の二次骨折予防を目的として、多職種による大腿骨近位部骨折再骨折予防サポートサービス(Nishinomiya support of Prevention for secondary Osteoporotic Proximal hip fracture 以下 N-POP)を開始した。N-POPではCa、25ヒドロキシビタミンD(25OHVD)、骨型酒石酸抵抗性酸性ホスファターゼ(TRACP-5b)の測定を推奨し、その結果に基づき薬剤師が処方提案を行っている。これらの実施状況及び薬剤師の関わりを調査したので報告する。

【方法】

2019年1月～2021年6月のN-POP対象者173例のうち死亡、逸脱、拒否等により対象とならなかった例を除いた107例を調査対象とし、年齢、性別、入院期間中のeGFR、Ca、25OHVD及びTRACP-5bの測定値及び骨粗鬆症治療の薬剤提案について調査した。

【結果】

対象患者の平均年齢は 83 ± 7.6 歳、性別は男性25名、女性82名、平均eGFRは 55.5 ± 24.9 ml/min/1.73 m²であった。入院期間中のCa、25OHVD、TRACP-5bの測定値の平均はそれぞれ 8.8 ± 0.5 mg/dl、 12.4 ± 5.7 ng/ml、 470 ± 248 mU/dlで測定率は100%、71%、56%であった。対象とした107例のうち73例は骨粗鬆症治療薬の持参がなく、薬剤師が処方提案を行った57例中、43例(75%)が提案通り処方追加となった。提案した薬剤はビスホスホネート(BP)製剤が20例、活性型ビタミン(VD)製剤が37例であった。提案を行わなかった16例は腎機能の低下によるものが7例、がん患者が5例、その他4例であった。

【考察】

検査値を評価し、薬剤提案を実施しており、eGFRが 35 ml/min/1.73 m²未満の患者へのアレンドロン酸や、腎機能低下によりCa値が正常値上限である患者へのVD製剤の追加など薬剤師だけでは判断が難しい症例においては薬剤師が直接腎臓内科医にコンサルトし、可能な限り薬剤を提案するよう努めている。今後も腎臓内科医や担当医と協議し、適切な薬剤提案に努めることで骨粗鬆症治療及び再骨折の予防に貢献したい。

要旨本文: 717/800 字